

「情報活用能力を高める研究」― 都道府県を調べよう ―

提案者 山梨市立日下部小学校 川崎 剛

前書き

本実践では、1人1都道府県を選び、その都道府県の特徴を調べるために、前段では図書資料で必要な情報を収集し新聞形式にまとめる。後段では、各都道府県の特産品等の画像をインターネットで検索したり、前段で調べたことをコンピュータの発表ソフトにまとめたりして、発表会を行った。

1 題材 「都道府県を調べよう」（小学校4年・総合的な学習の時間）

2 題材について

4年生の社会科では、学習指導要領の内容として「47都道府県の名称と位置」が明示されており、同解説 社会編には、「我が国が47都道府県によって構成されていることが分かり、都道府県の位置を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図（白地図）上で指摘できるようにすることである。」と記されている。

本校の4年生は、4月に47都道府県の学習を行ったが、その際、名称と位置だけでなく、地図帳に掲載されている特産品にからめて扱ったところ、「他にどんな特産品があるのか調べたい。」・「都道府県について、もっといろいろなことを知りたい。」等の感想が多く寄せられた。そこで総合的な学習の時間において、児童の興味・関心に基づいた社会科の発展的な学習課題として、本学習を仕組むこととした。

本学習では、①学習の前半で、各都道府県の特徴（名所・旧跡・特産品等）を、図書資料で調べ、新聞形式にまとめる活動、②学習の後半で、パソコンの発表ソフトを使って発表会を行う活動を、それぞれ中心に行う。

①の「新聞にまとめる調べ学習」では、ある程度、調べる項目や書式を統一した枠を与え、図書資料で調べ活動を行う。ここでは主に、調べたい内容が載っている本を要領よく見つける力や、見つけた資料から、伝えたい内容を分かりやすく短くまとめる力をつけさせたい。

②の「パソコンの発表ソフトを使っての発表会」では、各都道府県の名所・旧跡・特産品等の画像とその解説が、視覚的に捉えられるようにし、パソコンを使えば、短い時間で効率良く分かりやすく情報を伝達・吸収することができることに気付かせたい。また今回の学習活動を通して、インターネットでの画像検索・文字入力・発表ソフトの操作等の習熟も図りたい。

指導にあたっては、これまでの国語科での学習成果を生かしたい。また、本学習は基本的に個の活動が中心であるが、児童相互の教え合いを重視していきたい。

3 学習の目標

- 各都道府県の特徴を調べるために、図書やインターネットで必要な資料を収集することができる。
- 収集した資料を適切に紙面にまとめたり、情報機器を活用し効果的に発表したりすることができる。

4 児童の実態

男子18名、女子13名、計31名で、明るく元気があり、男女の仲も良い学級である。学習面においては、個人差が大きい。

総合的な学習の時間においては、3年生の時、やはり社会科の発展として、市内の特色ある施設に質問状を送り、寄せられた回答を基に、レポート形式にまとめる取り組みをしたが、大変意欲的に取り組んでいた。今回の学習では、前年度の同様の学習の成果を生かしつつ、質的な向上を目指したい。

都道府県についての知識の定着状況については、本学習に入る前に、47都道府県をほとんど知っている児童がいる一方で、本学習で都道府県について取り組み始めても、なかなか知識として定着しない児童もいるが、本学習に入ってから調べ活動に関しては、全体的に意欲的に取り組んでいる。

情報機器の活用については、3年生の時、インターネットでの情報検索、ローマ字での文章入力等の学習を行ってきた。今回の学習においては、インターネットの都道府県パズルゲームを導入の活動として取り入れたが、大変、楽しいと感じたようである。文字入力（ローマ字入力）については、3年生の時の学習から時間が経ち、操作法を忘れてしまった児童が多く見られたが、学習が進んでいくうちに思い出したり、児童相互の教え合いで身に付いてきたりしている。

5 本部会の研究内容との関わり

本部会では「情報活用力を高める研究」をテーマとし、「情報機器の活用」をその研究内容の中心に位置付け2年間、取り組んできた。本学習で扱う「各都道府県の名所・旧跡・特産物」等は、小学4年生にとって、なじみが薄く、文字説明では、イメージがつかみにくいことが予想される。その反面、視覚的に捉えられる画像資料（写真）を提示されれば、容易にイメージを捉えることができるであろう。短い時間で、数多くの画像資料（写真）を提示し、説明を加えるといった学習内容を行う際、「情報機器（パソコン）の活用」は、大変、有効かつ効率的な手段であると言える。また、「情報機器」を使用することで、児童の関心が高まり、主体的に活動をし達成感を覚えるという効果もあるが、方法が目的に陥ることのないよう、あくまで本学習の目的を達成するための有効な手段として「情報機器の活用」を行う。

6 指導計画と評価規準

(1) 評価規準

【課題設定の能力】

- ・自分の興味、関心に応じて調べる都道府県を選ぶことができる。
- ・都道府県について調べる項目を考え付くことができる。

【課題解決の能力】

- ・都道府県について調べるための図書資料を探すことができる。
- ・情報機器を使って、発表原稿を作ることができる。

【表現の能力】

- ・都道府県について調べたことを、わかりやすく見やすく、新聞形式にまとめることができる。
- ・情報機器を使って、調べたことを、わかりやすく発表することができる。

【自己の生き方を考える力】

- ・友達の調べた成果を、自分に生かそうとしている。
- ・本学習を振り返り、自分の考えをまとめる。
- ・本学習をとおして身に付いた力を知る。

(2) 指導計画 (全20時間)

	時間数	主な学習活動	評価項目
社 会 (3)	1・2時	47都道府県の位置と名称を調べる。	
	3時	47都道府県で有名なものを、地図帳で調べる。	
第1次 (4)	1・2時	都道府県おもしろクイズに挑戦する。	・都道府県について興味、関心をもとうとしている。
	3・4時	都道府県パズル(学習ゲームソフト)に挑戦する。	・学習ゲームソフトに取り組むことで、都道府県に対する興味、関心を高める。 ・パソコンの基本的な操作方法がわかる。
第2次 (7)	5時	都道府県新聞を作るための計画を立てる。	・自分の興味、関心に応じて調べる都道府県を選ぶことができる。 ・都道府県について調べる項目を考え付くことができる。
	6・7時	図書室で自分の調べたいことが載っている資料を探す。	・都道府県について調べるための図書資料を探すことができる。
	8～10時	資料で調べたことをもとにして、新聞形式にまとめる。	・都道府県について調べたことを、わかりやすく見やすく、新聞形式にまとめることができる。
	11時	これまでの学習を振り返る。	・友達の調べた成果を、自分に生かそうとしている。 ・本学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 ・本学習をとおして身に付いた力を確認する。
第3次 (9)	12・13時	インターネットで調べたい都道府県の特徴を調べる。	・情報機器を使って、調べたい項目について調べることができる。
	14～16時	パソコンの発表ソフトを使って、発表原稿を作る。	・情報機器を使って、発表原稿を作ることができる。
	17時	パソコンの発表ソフトを使って、発表練習をする。	・情報機器を使って、調べたことを、わかりやすく発表することができる。
	18・19時 (本時)	パソコンの発表ソフトを使って、発表会をする。	・情報機器を使って、調べたことを、わかりやすく発表することができる。
	20時	都道府県かるたを通して、学習の成果を確認する。	・友達の調べた成果を、自分に生かそうとしている。 ・本学習を振り返り、自分の考えをま

末 8 分	く。 (感想シートに記入) ・学習目標が達成できたか、自己評価する。 ・学習感想を発表する。(代表児童)	★個々に挙手をさせて確認する。	感想シート
-------------	---	-----------------	-------

8 まとめ (成果と課題)

成果

- ・「発表名人」のソフトを使い、発表したい特産物等の画像を、大型モニターで見やすく提示することで、効果的に発表を行うことができた。
- ・短い時間の中でコンピュータを使って発表する技能が身につき、次への選択肢が増えた。

課題

- ・情報機器を効果的に使うことは、現代の子ども達にとって必要不可欠であるが、発表（表現）する方法も、コンピュータ以外の方法（新聞、ポスターセッションなど）も、児童の興味、関心に合わせて考えさせていくことを目指していきたい。
- ・今回調べたことをもとにして、次の課題を設定していくという学習方法もある。